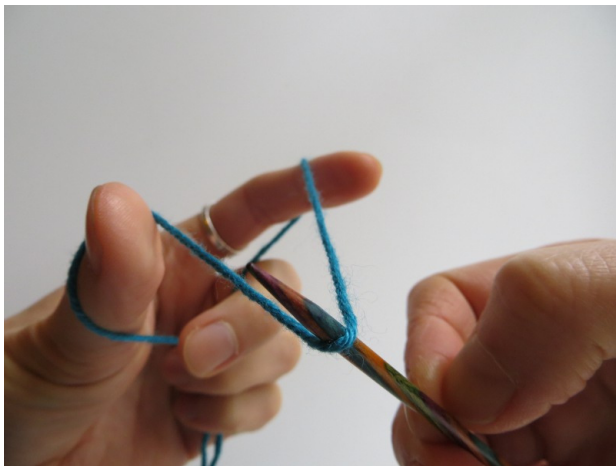


ドイツのねじり作り目(またはノルウェーの古い作り目)

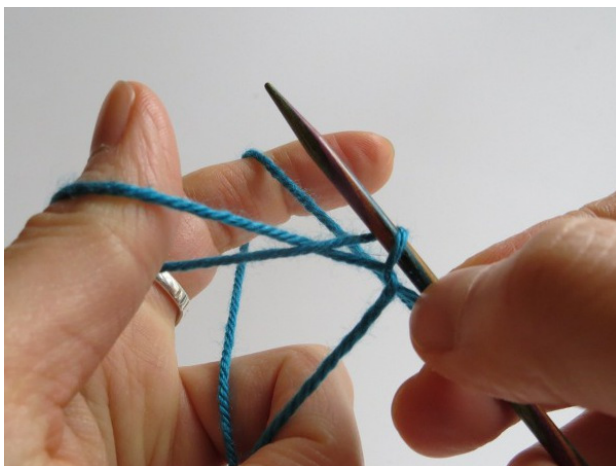
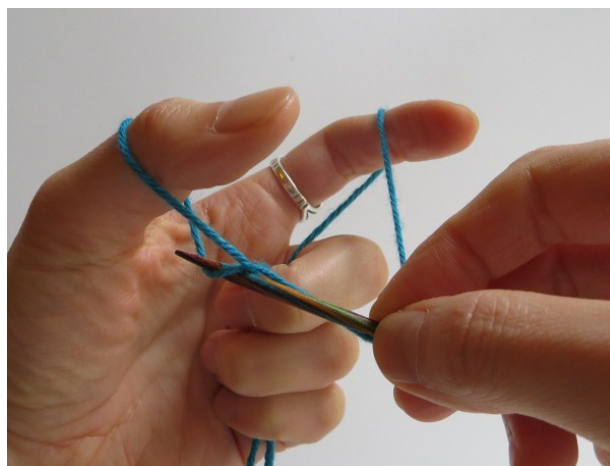
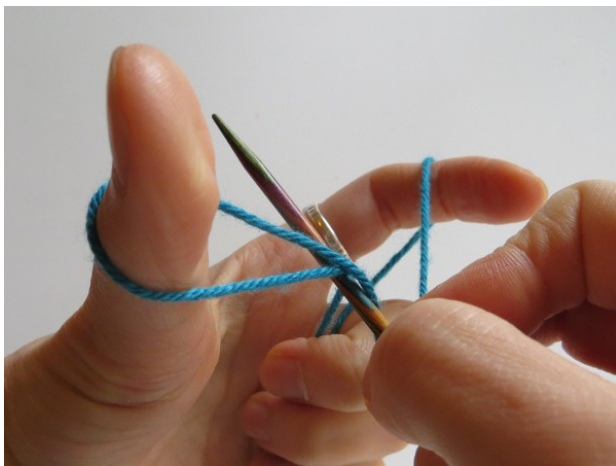
指でかける作り目の一種ですが、糸をかけるときに一ひねり加えるので、丈夫な目ができます。
裏と表の仕上がりが同じになります。

指でかける作り目では作る段の長さの3倍の糸端を用意しますが、この方法では約4倍にします。

1. 始めの構え。糸を親指と人差し指にかけ、編み針を真ん中に通します(糸端は親指側)。

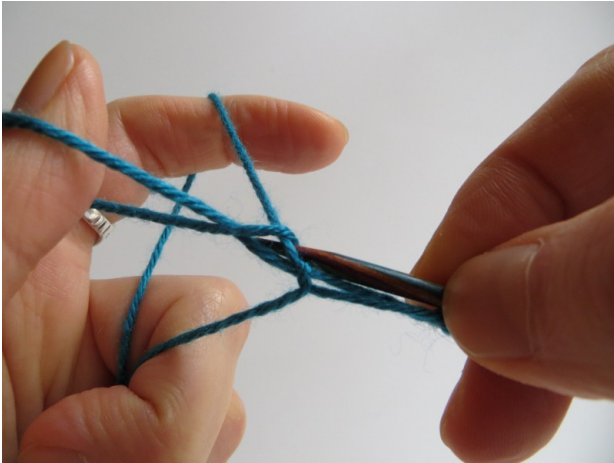


2. 針を下側から親指にかかった右側の糸の右まで持っていき、糸をすくいます。

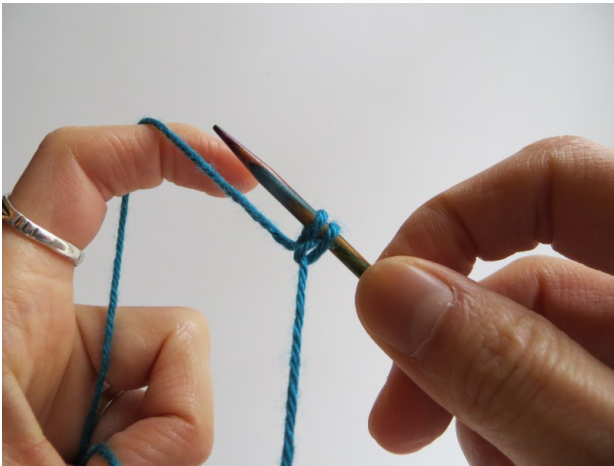


糸を手前まで持ってきた状態。

3. 親指の糸が針にかかったまま、人差し指手前側にかかった糸を手前に向かってすくい、ループに通します。

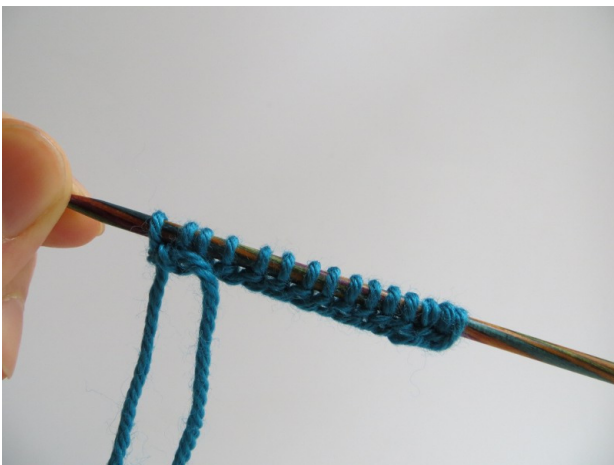


4. 親指にかかった糸を放します。始めは2目出来ます。

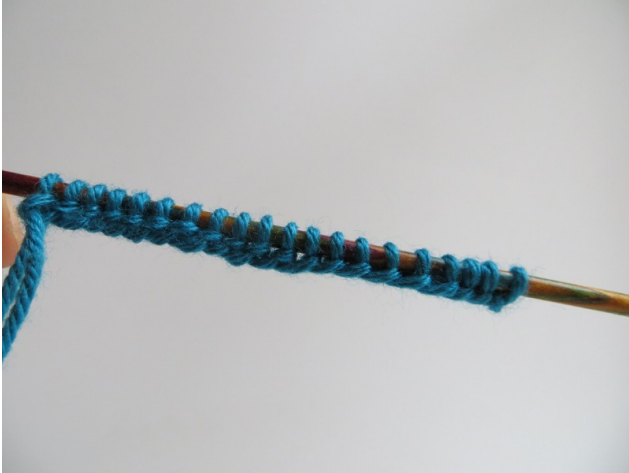


続けて、2から4の作業をくり返して必要な目数を作ります。

作り目終了。表側と裏側がほぼ同じ仕上がりになります。



ねじり作り目と指でかける作り目の比較。ねじり作り目(左側)のほうが、段の高さが出ます。



1目ゴム編みを数段編んでみました。一般的な指でかける作り目よりも縁が丈夫になります。

